



く せ ん 泉 薫

学校の目標
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心を持ち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
・よく考え、進んで学習する子ども
・いつも元気で、じょうぶな子ども
・こころ豊かで、やさしい子ども

「子どもたちは未来の希望」

校長 井上光広

二〇五〇年まで、あと二十八年。その時、いま私たちの目の前にいる小学生たちは、三十五歳から四十歳という年齢になります。二〇二二年の今、保護者の皆さんの多くの方々が、これに近い年代です。つまり、二〇五〇年という未来は、次の世代の活躍の舞台なのです。

私の尊敬する台東区のある校長先生（現在は、私立小学校の校長）は、公立小学校の校長としての最後の思いを込めて、二〇五〇年を「二十一・五世紀」と名付けて、その時代の主役となる今の小学生たちを、未来に向かってどう育てていくかという、学校をあげての研究活動を行い、その成果を研究発表会という形で世の中に投げ掛けました。

二〇一七年には、私自身、この学校の研究発表会に行つて学ばせていただきました。この頃はどの学校も、新しい学習指導要領の考え方を懸命に探っている時であり、いかにしてアクティブラーニングを行うか、または情報教育をどう深めていくのかなどを通して、未来に待つ、未知の問題解決に挑んでいく学ぶ態度や人間性、資質・能力を育てるためにはどうしたらよいか、考える場となりました。

それから五年たちました。この五年間に、これまでに経験のない自然災害や新型コロナウイルス感染症の問題が起きました。まさに未知の問題

です。人類は、世界中で様々な意見を主張し合い、なんとか問題解決へ導こうと、みんな懸命に闘っています。子どもたちも、他人事ではなく、一人一人が自分の問題として大人と同じように深く考えようとしています。また今後の未来を見すえた動きとしては、「SDGs」や「Society5.0」といった課題にも取り組む必要があるでしょうし、自動車の自動運転や空飛ぶ乗用車、セグウェイなどが実用化されたとしたら、おそらく学校の交通安全教育も変化していかなくてはならないでしょう。

このように大きく変動する未来に向けての子どもの問題解決力を高めるために、大田区教育委員会は、「STEAM教育・未来ものづくり科」の新設を目指しています。STEAMとは「Science（科学）」「Technology（技術）」「Engineering（工学）」「Art（芸術）」「Mathematics（数学）」を総合的に学んでいく教育のことをいいます。この教育を行うことで、子どもたちは自ら課題を見付け、様々な角度から物事を捉えて探究活動を繰り返し、課題を解決し、新しい価値を創り出していくようになります。その結果、主体的で自立した学びをする習慣を身に付けていきます。このような学習習慣は、大人になっても消えない学力として残り続けます。この三学期の合い言葉にした「なぜなぜ思考でいこう！」という発想とほぼ同じです。本校でもこうした大田区教育委員会の構想と歩調を合わせて、未来からの希望の使者である子どもたちの育成に力を注いでいきます。

【卒業式や入学式について】

感染症予防のため、三月二十四日の卒業式と四月六日の入学式については、在校生（現五年生・新二年生）の参列は行いません。現六年生、新一年生、保護者二名まで、一部のご来賓、教職員のみの参列という形式となります。

三月の生活目標

生活指導部

『一年間の成長をふりかえろう』

いよいよ三月。一年間のまとめの時期です。今年度は昨年度と比べ、感染症対策をとりながら、多くの行事を実施することができました。

一年間を通して、心も体も大きく成長し、それぞれの教科で、学習したことやできるようになったことを振り返るようにしています。

ご家庭でもお子さんの成長を振り返ってみてください。学業だけではなく、生活の仕方や内面の成長を見付けて、褒めたり励ましたりする言葉は子どもに自分の成長を自覚させ、自信をもたせます。新しい学年での大きな一歩につながることでしよう。よりよい成長を願い、見守っていきましょう。

『なかよし班活動』

特別活動部

特別活動の理論の中の一つに、「山登りリーダーシップ論」というものがあります。リーダーとリーダーシップの違いを説明した理論です。リーダーは一人しかいないけれど、「リーダーシップは誰もが有している」という考え方です。それを山登りに例え、全体を見通している全体マネジメントリーダーシップ、中間でつないでいくリーダーシップ、後から支えていくリーダーシップがあり、リーダーシップには人それぞれに違うリーダーシップのスタイルがあるということです。これがまさに矢口小なかよし班活動での高学年に求められる姿、目指す活動といえます。一年間の活動を通して自分にはどんなリーダーシップ力があるのかを知り、自分と向き合い、そしてリーダーシップを発揮する中で自己有用感を高めてきました。

今年度なかよし班は、全校児童を十五班三十グループに分けて活動をしてきました。一回約三十分間の活動ですが、六年生が中心となって、事前にリーダー会、六年生会議、担当の教員との打ち合わせ、内容等を全校周知し、本番、事後には班での振り返り、担当教員との振り返りまで行っています。立場や役割が人を育てると言われますが、なかよし班は、高学年の子どもたちが育つ絶好の機会となっています。